

未来に伝えたい。まいばらの水。12選

vol.21



まいばらの水
イメージキャラクター
スイナちゃん

米原には、深い山々が育んだ米原の美しい水が残されています。このコーナーでは、「未来に伝えたい。まいばらの水」に選ばれた湧水や、地域と水との関わり、水に関する話題についてお届けします。

水にまつわるエピソード

米原には水にまつわるさまざまな伝説や昔話などが残されています。「まいばらの水」巡り、水と地域の関わりについて、今に伝わる水にまつわるエピソードをご紹介します。

① 神籠池 (大清水)

泉神社裏の湿地帯、林の中にある池で、その昔、伊吹山の戸谷の竜神がこの地に立ち寄り、ここから今頃の雨壺へ向かったという竜神伝説が残されています。かつては神社裏手の湿地帯がこの池まで続いていたといわれ、人々は竜神を恐れて近寄りませんでした。6月上旬には一面にハナシヨウブが咲き、神聖な雰囲気を感じ出します。



② 野頭茶所 (上野)

かつて北国脇往還沿いにあった茶所で、濁れることのない井戸があり、いつも茶釜がかけら



れ、松尾寺により野良仕事や川戸山の行き帰りの通行人に振る舞うお茶が用意されていました。秋にはさつま芋行商用の大八車が、ところ狭しと並んだといわれています。現在残っている井戸は近年に掘られたもので、もともと使用していた井戸はセメント工場ができた時に埋められてしまいました。野頭にあった常夜灯は上野の三之宮神社の裏へ、道標は伊吹山1合目のリフト乗り場跡近くへ移転されています。

水の豆知識!

その2 バーチャルウォーター

日本の食料自給率(カロリーベース)は、1960年には79パーセントでしたが、2006年には39パーセント(最新データの2013年も同数値)までに低下し、その多くを輸入に頼っています。先進国と比べると、アメリカ127パーセント、フランス129パーセント、ドイツ92パーセント、イギリス72パーセントとなっており、

我が国の食料自給率は先進国の中で最低の水準です。

特に畜産業の拡大にともなって、飼料用穀物の輸入が増加しました。この穀物を作るには水が必要です。つまり、穀物を輸入するということは、間接的に水を輸入していることとなります。このように、輸入している産物を自国で生産したと仮定した場合、必要となる水の量をバーチャルウォーター(仮想水)といいます。

